自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目のつく場所に貼り出し、会議や日々のミーティングにおいて、実践にむけて意識している。	毎月の会議で日々の業務を振り返り、理念に沿った支援が行われているか確認している。職員は理念を理解しており自分の言葉で語ることが出来る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や会議等に積極的に参加している。事業所の行事にもお誘いしている。	地区の回覧板を見て入居者と一緒に出かけられるものがあれば積極的に参加している。また、ホームの行事に関してはチラシを作ったり、回覧板で住民に知らせている。定期的に訪問するボランティアグループもあり、地域との交流は徐々に増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を理解していただけるように、事業所が発行する公報を配布している。地域の方への貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では意見が出やすい雰囲気作りに心がけ、外部から頂いた意見は大事にし、サービス改善に活かす努力をしている。	会議ではホームの活動報告と課題を話し合い、参加メンバーからいただいた意見や要望をサービス向上に活かしている。外部評価結果や改善計画も報告し課題解決に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所の実情・活動をお知らせし、アドバイスを頂いている。	市の担当者には運営のこと、サービスのこと、入居者のことなど何でも相談している。担当者にはどんな相談にものっていただき、的確なアドバイスをしていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、事業所内で報告会を行い、禁止の意味を理解している。身体拘束はしないケアが行えている。	身体拘束等に関する勉強会で拘束の内容や弊害について理解を促し、身体拘束や行動制限のないケアを実践している。対応や声掛けなどで気になることがあれば皆で話し合い再確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、事業所内で報告会を行っている。虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、報告会を開き、情報の共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、重要事項説明書をもとに説明し、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族、利用者に参加していただき、そこでの意見を運営に反映させている。	家族会は毎年5月に開かれており、会議以外に昼食会、草取りなどの作業、そして面談など一日がかりで行われている。家族会・運営推進会議以外でも家族が来所した時や玄関の意見箱などを活用し意見・要望を聞いている。頂いた意見や要望は職員会議等で検討し運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の会議において、話し合いの機会を設け意見を反映している。	職員は一人ひとり担当する係が決められており、毎月の会議等で意見やアイディアを出している。また、職員が良いケアをした場合にはそれを話題にし、サービスの質の向上に繋げている。職員は会議で自分の考えを述べるなど、活発な意見交換が行われている。管理者は職員の様子を見ながら必要があれば面接し、相談にのることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回自己評価表により、自己を振り返り、意見を言う場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を多く設け、参加者は内部研修を行い、全職員で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の他事業所や他法人施設との交流はあり、情報交換や意見交換でき、学ぶ場もある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の中で、本人の意向や気持ちを受容し、安心していただける努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の話もじっくり聞き、連絡を取り合い良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかり行い、まず必要なことをケアプランに組み入れ実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	持てる力を発揮し役割を持っていただくことで、居場所作りを心がけている。一緒に、ゆっくり、楽しく生活することをモットーにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回生活の様子、利用者の気持ちなどを知らせ、報告、連絡、相談は行えている。訪問しやすい環境作りを心がけ、訪問時はゆっくりしていただけるようにし、家族との関係が疎遠にならないように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からも情報を得て、季節ごと馴染みの場所へ出かけられる機会を作っている。馴染みの方が、面会に見えた時は、ゆっくり話が出来る環境を作っている。	本人の生活歴や生活習慣、馴染みの場所や友人等に関する情報を家族や子供たちから聴取している。昔行ったことのある食堂へ出かけたり、スーパーで偶然、友人に出会い声を掛けた入居者もいる。入居後も馴染みの人や通いなれた場所との関係が継続できるよう個別支援を積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、孤立しそうな方とも関係作りが出来るように工夫を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用の終了例がないが、必要に応じた関係は続けて行きたいと思う。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望が言える方には希望に添ったプランを立案している。言葉だけでなく、表情や行動から発するものも大切にしている。ミーティングで統一ケアが行えるよう話し合っている。	今日はどうしたいのか、今は何をしたいのか、日々、一人ひとりに声を掛けて思いや希望の把握に努めている。意思表示の難しい入居者は現在いないが、そのような場合には今までの生活状態や情報などを参考に話し合い、本人本位に検討したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ワークシートを使ったり、本人や家族との会話の中から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ワークシート等で現状を把握したり、関わりの中で情報を共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングをもとに作った介護計画は、チームで話し合い、共有できている。家族への説明、話し合いを行い、利用者の変化にあわせ、計画の立て直しを行っている。	本人や家族の意向を基に受持ちの職員と計画作成担当者が相談しながら原案を作成しミーティングで発表している。毎月評価を行い遂行状況を確認している。見直しは3ヶ月毎に行っているが、状況や意向が変わった場合には直ちに見直しをし、現状に即した介護計画に作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をもとに、ケアの見直しや、情報の共有は行えている。より良い記録のための勉強の必要を感じる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズの発生時には、職員で話し合いを持ち、そのときの状態に合わせた対応が出来るように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容院、医院、店舗等利用している。今後地域での活動を増やして生きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院が地域にあり、毎月の訪問診療でなじみとなり、良い関係が築かれつつある。受診は、本人、家族の希望を1番に考え、家族対応で行っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医院が毎月訪問診療しながら入居者の健康維持・管理を行っている。また、緊急時の受診、医療相談にも対応していただける。入居者の状態変化や緊急事態に備えて医療機関、母体のバックアップ施設等と連携し、適切な医療が受けられるよう協力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職は居ないが、法人の看護師、協力医院の看護師への相談は行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については家族対応であるが、入院時は見舞いに行き、退院時は病院より直接情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に向けての方針が具体的には、出ていず、家族との話し合いも行えていない。	開所から2年弱のため、重度化した場合や終末期支援についての方針はまだ決まっていない。会議では事例を参考にしながら皆で話し合っており、知識の習得に努めている。	重度化した場合や終末期の対応等についてホームがどこまで支援できるか皆で話し合い、ホームの方針を明確にされることを望みたい。本人や家族等に方針を伝え、希望に沿えるよう徐々に体制を整えていかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員応急手当講習会に参加しているが、定期的に確認しあう必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練は行っているが、知識も訓練経験も不足している。地域の取り組みにも参加し、協力体制は出来る方向で進んでいる。	消防署の指導を受けながら年2回（昼間、夜間想定）入居者と一緒に避難訓練を行っている。運営推進会議で防災訓練の報告をし地域の協力をお願いしている。同業者の火災報道の後、普段話し合っている災害対策について再確認しあった。食料、飲料水や介護用品等を数日分用意している。	災害対策については運営推進会議で相談しているが、早い段階で地域との協力体制を築かれることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を守ることを基本とした言葉掛けや対応に心がけている。プライバシーを確保できるように話のタイミングや内容、場所に配慮している。が時として気分を害される方も居る。	入居者一人ひとりを尊重し、プライバシーに留意しながら日々の支援に取り組んでいる。特に入浴や排泄支援には配慮している。入居者への声掛けは穏やかかつ丁寧で、職員の温かな気持ちを感じ取ることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しくなっている利用者に対して決め付けた声掛けをしてしまうことがある。表情でくみ取る努力が必要。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気分や体調にあわせ、個人のペースを大切にし、1日の流れは柔軟に変更できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院は本人の希望で行かれている。化粧や洋服選びも本人の意思で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は利用者と一緒に行い、味見では意見が多く出る。行事食の献立は積極的に参加されている。	調理や配膳は女性が担当し男性はテーブル拭きや後片付けと役割が自然と決まっている。入居者は出来る範囲で作業に参加している。食事は皆でテーブルを囲み、お彼岸の「おはぎ」と「ぼたもち」の呼び名の違う話しや出来栄えをほめあったり、土地柄ならではの話題もあったりと和やかで楽しい時間を過ごしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立が偏らないように、毎日日誌に記入している。体重増減や、塩分量や食事量など個々に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には行えているが、毎食後は出来ていない。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるように、その人の排泄パターンに合わせながら介助行っている。失禁パンツや尿器も使用している。	入居者一人ひとりの排泄パターンを活用しながら支援している。入居者のサインを職員が把握しておりトイレでの排泄や自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間に関しては睡眠リズムを崩さないよう配慮しつつ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防のため起床時は水を飲んでいただき、体操や散歩で運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めているが、本人の体調や希望で変更している。プライバシーを大切にし個浴を行い本人のペースで入っていただいている。	入浴日や時間は決まっているが入居者が気分良く入浴できるようにタイミングを見ながら声がけをしている。湯船に浸かる入居者に話しかけ、ユックリ入浴できるように一人ひとりに合わせ支援に努めている。近くの温泉に行くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間はそれぞれで行われている。日中も自由に休息されている。日中の活動を増やし、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用について表に書いてあり、職員が理解できている。変化が見られるときは相談、報告体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑、料理、園芸など得意とすることで、張り合いを持っていただいている。温泉、喫茶、講演会など趣味に合わせた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週１回は買い物外出行えている。墓参りや美術鑑賞など本人の希望や家族の誘いでの外出も行っている。	天気の良い日は庭やホーム周辺を散歩している。四季折々、ドライブがてら公園や山などに出かけお花見や紅葉狩りを楽しんでいる。新聞を見てこの人の話を聞きたいと希望があれば講演会に出かけて行ったり、展覧会を見て「良い物に触れてきた」などと喜ぶ入居者もいる。個別の希望に合わせ外出支援を積極的に行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で預かっているが買い物の希望があれば、同行し購入していただいている。家族へ金銭出納について毎月報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望に合わせた支援が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者の馴染み易い空間となっており、家具や飾り物も雰囲気に合ったものを選んでいる。季節の花やものを飾り季節感を大事にしている。	中央の広い居間兼食堂を囲み居室や台所、洗面所などがある。吹き抜けの天井には明り取りの窓がある。民芸調のタンスの上に入居者の初節句の時のお雛様が飾られており、80有余年を共に過ごしてきた年代を感じる立派なお雛さまであった。玄関やホールには沢山の花が飾られ、気持ちよく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に特別に作っていないが、食卓やソファーを使い思い思いの時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参された家具や道具を使用し自分なりの使い方がなされている。写真等飾り、殺風景にならないように工夫している。	各居室の入り口の戸は趣きのある戸障子で室内は明るくきれいに整頓されている。ガラス越しに土蔵や針葉樹の古木のある庭を眺めることが出来る。この眺めが気に入って選んだという居室には自宅から持ち込んだ家具が置かれ、写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	古民家という特性を活かした作りとなっていて、そのことは利用者の安心につながっている。居室から共用部の動線も最低限で安全に配慮できている。		